

Discussion Paper Series

No.3

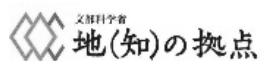
2019-3

稚内北星学園大学地(知)の拠点整備事業は 地域住民の意識に変化を与えたか:
活動報告会等参加者アンケート調査結果を用いた一考察(2018 年度版)

石橋 豊之

Center for Regional Development Support

WAKKANAI HOKUSEI GAKUEN
UNIVERSITY



【論文】

稚内北星学園大学地（知）の拠点整備事業は地域住民の意識に変化を与えたか：活動報告会等参加者アンケート調査結果を用いた一考察(2018年度版)

石橋 豊之

稚内北星学園大学 助教

● 要約

昨年度、「稚内北星学園大学地（知）の拠点整備事業は地域住民の意識に変化を与えたか：活動報告会等参加者アンケート調査結果を用いた一考察」の題目で地域志向教育研究経費をいただき調査・分析を行った。この分析では、第6回までの地域活動報告会のデータを使用した。2019年3月現在、文部科学省の補助期間内最後の第10回地域活動報告会が終了している。また、その際にはアンケートを賜り、その中には自由記述欄を設けている。昨年度よりデータが増えたことを踏まえて改めて分析を実施したものである。結果としては昨年とほぼ同様のものではあった。また、今回は一般参加の属性をさらに細かくして分析を行ったが、こちらはやはり参加者ごとに異なる特徴があった。

● キーワード

COC

稚内北星学園大学

稚内市

地域

テキストマイニング

KH Coder

1. 研究背景と目的

文部科学省では、「大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的」[1]として地（知）の拠点整備事業（COC 事業）を平成 25 年度、平成 26 年度の 2 年間公募を行ってきた（平成 27 年度は COC+として展開）。筆者の所属する稚内北星学園大学でも、平成 26 年度より文部科学省の COC 事業（（知）の拠点整備事業）に採択され、調書に基づき下記の 3 つを柱とし事業を展開している[2]。

1. 地域の教育力向上
2. 観光まちづくり
3. 中心市街地活性化

このような状況下において、下記にも示すが本学は地域活動報告会およびシンポジウムを開催してきた。そして昨年度平成 29 年度地域志向教育研究経費として「稚内北星学園大学地（知）の拠点整備事業は地域住民の意識に変化を与えたか：活動報告会等参加者アンケート調査結果を用いた一考察」が採択されて研究を行なった。これは第 6 回目までの地域活動報告（第 1 回は実施していないため除く）および全国シンポジウムにて配布したアンケートの自由記述に対して、テキストマイニングを用いて分析を行ったものである。この結果に関しては本学紀要にて公開しているのでそちらを参照されたい[3]。

一方で、この分析結果に関しては第 6 回目までを対象としたが、本学 COC 事業期間内には下記のように計 10 回地域活動報告会を実施している。

- 2014 年 9 月 16 日 第 1 回地域活動報告会
- 2015 年 2 月 25 日 第 2 回地域活動報告会
- 2015 年 9 月 28 日 平成 27 年度 COC 地域シンポジウム
- 2015 年 11 月 16 日 第 3 回地域活動報告会
- 2016 年 1 月 26 日 第 4 回地域活動報告会
- 2016 年 9 月 17・18 日 第 1 回 COC 全国シンポジウム・第 5 回地域活動報告会
- 2017 年 2 月 14 日 第 6 回地域活動報告会
- 2017 年 11 月 21 日 平成 28 年度 COC 地域シンポジウム・第 7 回地域活動報告会
- 2018 年 2 月 27 日 第 8 回地域活動報告会
- 2018 年 6 月 26 日 第 9 回地域活動報告会
- 2018 年 10 月 27 日 第 10 回地域活動報告会・COC 総括シンポジウム

そこで、本稿では改めて第 10 回目までのアンケートデータを用いてその自由記述に対して分析を行うこととした。そして、昨年度同様市民が大学あるいは COC 事業をどのように捉えているのか、そ

してそこに意識の変化があったのかを客観的なデータから明らかにすることを目的とする。また、そうしたデータから、今後の本学のCOC事業の展開のあり方についての考察も行う。

2. 研究手法

2.1 テキストマイニング

自由記述を対象とした分析手法としてテキストマイニングがあり、昨年度はそのうち共起ネットワーク[3]を用いて分析を行った。本稿においても同様の分析を行う。なお、テキストマイニングに関する定義は下記的那須川のものを使用している[4]。

単なる検索や分類整理とは異なり、複数の文書データの内容を総合的にとらえることで初めて得られる知見を抽出するための内容分析の技術

また、分析に使用するソフトウェアはフリーソフトウェアのKH Coderを用いる[5]。また、KH Coderでは、形態素解析[6]をかける際に、形態素解析ソフトのMecabかChaSen（茶筌）を選べるが、今回はChaSen（茶筌）を用いた。

2.2 対象となるデータ

対象となるデータは前述した第10回目までの地域活動報告会のアンケート結果のうち自由記述に関するものとなり、1120の自由記述が対象となった。各回の回収数は下記の通りであり、第1回はアンケートを実施していないためここには含めない。また、この間第2回COC地域シンポジウムおよびCOC総括シンポジウムを実施したが、そちらで使用したアンケートに関しては他の地域活動報告会で使用したものに対し、様式が大きく異なるため今回は対象外とした。

表1 各回のアンケートの回収数および回答率

	出席者数	回収数	回答率
第2回地域活動報告会	49名	26枚	53.1%
第3回地域活動報告会	86名	59枚	68.6%
第1回COC地域シンポジウム	82名	62枚	75.6%
第4回地域活動報告会	70名	50枚	71.4%
第1回COC全国シンポジウム	253名	82枚	32.4%
第5回地域活動報告会	102名	59枚	57.8%
第6回地域活動報告会(第1部)	60名	31枚	51.6%
第6回地域活動報告会(第2部)	50名	15枚	30%
第7回地域活動報告会	80名	49枚	61.2%
第8回地域活動報告会	60名	34枚	56.6%
第9回地域活動報告会	50名	31枚	62%

は共起関係にある。一方で細かい部分では、異なることがわかる。他大学の視察である「大学関係」に関しては、図 1 とは異なり、本学の取り組みと COC 事業を結びつけているように思われる。一方で他属性ではそうした傾向が見られない。教育関係はやはり地域や教育というものに着目しており、行政関係は、それと比較して研究なども含めて幅広く捉えていることがわかる。

4. 結論

前年度の結果と比較して大きく異なる部分はなく、むしろ前年度の結果と同様の傾向にあったといえよう。文科省からの補助期間が終了する次年度以降、より COC と本学の活動を結びつけていくことは重要となる。COC としての稚内北星学園大学をより周知していくためにもより一つ一つの活動が重要となる。

その中で、参加者が求める発表内容に関しては全体として異なる傾向にあることがわかった。地域志向教育研究経費の条件（地域活動報告会等での発表を必須としている）であったり、各支援室の報告内容の影響もあるが、学生が発表する場と教員が発表する場に関しては明確に分ける必要があると思料する。図 3、図 4 をみてもそれぞれの参加者によってニーズが異なることはわかる。特に COC 事業の中でも学生の取り組みというものに着目する参加者が多く、そうした意識に関しては会を重ねるごとに大きくなったと推察する。その意味で、学生の発表の場を設けるということは、住民のニーズに答えていく上でも必要であると思料する。当然、学生にとっても発表の場を設けることは、プレゼンテーションやアウトプット能力を鍛える意味でも有効であるため教育の側面でも重要であると推察する。

一方で、教員の発表の場に関しても、当然継続して設ける必要がある。ただし、教員に関しては COC に限らず、より広い研究も含めてアカデミックな内容にしていくことも視野に入れなければならないだろう。というのは、研究内容等によっては COC に限らない分野も当然あるため、発表の場を COC としての側面を強くしすぎると、そこでまた参加者と発表内容にギャップが生まれる可能性は否めない。そのため、そうしたギャップが生まれないように配慮した形式にすべきであろう。

最後に本研究の限界について前回記述したものを改めて下記に明記しておく。

量的にデータを用いて分析するということは、客観性が担保されるというメリットがある一方で、インタビュー調査といった質的な調査と比較して意識の変化（変容）について詳細な点まで探ることはできない。加えて、参加者の偏り・心情に関しても当然分析を行うことはできない。そのため、毎回参加する住民に関していえば、当初から大学に対し好意的な可能性も十分にあることを考慮しなければならないだろう。

謝辞

本稿は「平成 29 年度 稚内北星学園 大学地域志向教育研究経費」に採択され、助成を受けて実施したものをベースとして作成したものである。

● 注

- [1] 文部科学省.”平成 26 年度「地(知)の拠点整備事業」の公募”. 文部科学省 .
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1343250.htm , (accessed 2019-02-01).
- [2] 稚内北星学園大学. “COC 地(知)の拠点”. 稚内北星学園大学. <http://coc.wakhok.ac.jp/outline/>, (accessed 2019-02-01).
- [3] 石橋豊之, 齊藤吉広. 稚内北星学園大学地(知)の拠点整備事業は 地域住民の意識に変化を与えたか: 活動報告会等参加者アンケート調査結果を用いた一考察. 稚内北星学園大学紀要. 2018, 19, p.76-86.
- [4] 那須川哲哉. テキストマイニングを使う技術/作る技術: 基礎技術と適用事例から導く本質と活用法. 東京電機大学出版局, 2006, 236p. 参照部分は、p.1.
- [5] 樋口耕一. “KH Coder”. KH Coder. <http://khc.sourceforge.net>, (accessed 2019-02-01).
- [6] 「文字列を文法的に意味のある単位の構成要素に分割し、各要素の文法的素性(品詞など)を決定する」(那須川, 2006)ことである。

●参考文献

- ・ 稚内北星学園大学地域活動報告会等の報告書
こちらについては本学機関リポジトリで公開されている。
稚内北星学園大学. “稚内北星学園大学 学術機関リポジトリ”. 稚内北星学園大学 学術機関リポジトリ. <https://wakhok.repo.nii.ac.jp>, (accessed 2019-02-01).

『稚内北星学園大学地域創造支援センターディスカッションペーパーシリーズ』発行規程

(発行の趣旨)

第1条 『稚内北星学園大学地域創造支援センターディスカッションペーパーシリーズ』(以下、「本誌」という。)は、個々の執筆者の責任のもとに、研究の進展と地(知)の拠点整備事業の促進を図るため、研究の中間的なまたは最終的な成果を迅速かつ簡易な方法で印刷して発表するものとする。

2. 同一内容または一部を修正した論文の公刊は妨げない。
3. 第1項の印刷は、電子的方法による公開に代えることができる。

(投稿者)

第2条 本誌に投稿できるものは、次の各号の通りとする。

- (1) 稚内北星学園大学教職員
- (2) 前号の者との共同執筆者
- (3) その他、特別に地域創造支援センターが承認し、または依頼したもの

(原稿の種類)

第3条 投稿できる原稿の種類は、論文、資料及び講演録(以下、「論文等」という。)とする。

(原稿の提出)

第4条 原稿は地域創造支援センターが指定する電子媒体で提出するものとし、最終版下原稿として体裁を整えたものとする。

2. 原稿については、提出された後の校正、差換え等は一切受け付けない。

(著作権)

第5条 本誌に掲載された個々の論文等の著作物の著作権は、著作者に帰属する。

2. 稚内北星学園大学地域創造支援センターは、編集著作権を有する。
3. 地域創造支援センターに属する機関の活動を記録した著作物の著作権は、地域創造支援センターに帰属する。
4. 本誌に掲載された論文等は、原形のまま電子的方法で複製し、稚内北星学園大学機関リポジトリにアップロードし、ウェブにて公衆に供する。
5. 著作者の申し出により全文に代えて論文等の要旨を掲載することができる。ただし、この場合は全文を稚内北星学園大学図書館に備えおき、公衆に供さなければならない。
6. 第4項ないし前項の掲載にあたっては、第4条による原稿の提出をもって著作権者の承諾があったものとみなす。

(補則)

第6条 本誌の発行に関して必要な事項は、この規程のほかCOC推進委員会が別に定める。

2. この規程の改正は、COC推進委員会の議を経て学長が行う。

付 則 この規程は平成27年6月1日から施行する。

付 則 (平成28年5月24日)抄

- 1 この規程は、平成28年5月24日から施行し、平成28年4月1日より適用する。

ディスカッションペーパーシリーズ No.3

稚内北星学園大学地(知)の拠点整備事業は 地域住民の意識に変化を与えたか:

活動報告会等参加者アンケート調査結果を用いた一考察(2018年度版)

2019年3月1日発行

著 者 石橋 豊之

新・紙ザイン 稚内北星学園大学 COC 推進委員会

〒097-0013 北海道稚内市若葉台1丁目 2290-28

電 話:0162-32-7511(代表)

メール:info@wakhok.ac.jp

無断転載を禁じます。